

新刊紹介

Michael Marmot
The Health Gap: The Challenge of an Unequal World
(Bloomsbury Press, 2015年)

菊池 潤*

著者であるマイケル・マーモットは世界医師会の会長を務める社会疫学の第一人者である。著者の業績をすべて紹介することはできないが、英国公務員を対象とした大規模縦断調査であるホワイトホール研究 (Whitehall Study), WHOの健康の社会的決定要因検討委員会による報告書 (*Closing the Gap in a Generations: health equity through action on the social determinants of health*, 2008年), あるいはイングランドにおける健康格差に対する戦略をまとめたマーモット・レビュー (*Fair Society, Healthy Lives*, 2010年) など、枚挙に暇がない。これらの業績は研究面に留まらず政策面でも大きな影響を与えているが、本書はこれらの膨大な研究成果に基づいた健康格差に関する啓蒙書である。

本書は11の章から構成されているが、第1章から第3章は総論として位置づけられ、重要な概念とともに、本書の主要なメッセージが述べられる。第4章から第10章は各論であり、第4章から第7章では人生の各ステージ (幼年期, 教育, 就業, 老年期) における問題が、第8章から第10章では3つの社会レベル (コミュニティ, 国, 世界) からみた問題が、それぞれ示される。最終章である第11章では、世界中における健康格差への取組みが現代社会の「希望」として示される。

本書の主なメッセージは以下の3点である。第1は、「健康の社会的決定要因」 (social determinants of health) の存在である。飲酒, 喫煙, 肥満などは疾患の直接的な原因となるが、これらの行動の背後にある要因, すなわち「原因の原因」 (causes of

causes) として、社会経済的要因に着目することの重要性を説く。生活習慣に起因する健康問題は個人の責任とみなされがちであるが、社会全体での「原因の原因」に対する働きかけが必要であることを指摘する。

第2は、「健康に関する社会的勾配」 (social gradient in health) の存在であり、本人のおかれた社会経済的状況が不利な状況であればあるほど健康状態が低くなることが示される。健康に関する社会的勾配は国家間・国家内の双方において観察されるが、「勾配」の意味するところは、健康格差の問題が低所得者や途上国に限定されるものではなく、すべての人々に関係する問題であるということであり、その対策は貧困対策に留まらず、格差対策にまで及ぶことを意味している。

第3に、合理的な手段によって避けられる健康上の不利益が生じているという意味で、現在の社会は「不公正」であるとし、その改善が必要であると説く。健康格差の問題に根本から対処するためには、人々や地域が自ら希望する生き方や地域のあり方を選択することができる環境を、3つの側面 (物質的側面, 心理社会的側面, 政治的側面) から整えることが必要であると主張する。

このように、本書では、著者らの膨大な研究成果をもとに、健康格差の問題を包括的に論じており、健康格差に関心を持つ方にとっては導入の書籍としても適していると言える。また、本書には疫学者以外にも経済学者をはじめとするさまざまな学問分野の研究者が登場する。このことは社会

* 国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部第3室長

疫学という学問の学際性をよく表しているが、なかに学問間の意見の相違も見られ興味深い。社会疫学を専門とする研究者に限らず、幅広い方々に手を取っていただきたい書籍の一つである。

(きくち・じゅん)